

## 連想法調査を用いた実習評価の試み

- 情意ベクトルによる基礎看護学実習 の評価 -

辻 慶子<sup>1</sup>・濱野 香苗<sup>2</sup>・野村亜由美<sup>2</sup>・井上 晶代<sup>2</sup>

**要 旨** 本研究の目的は連想法調査を用いて基礎看護学実習 の実習評価を情意的側面から検討することである。基礎看護学実習 の目的である看護過程の展開について「難しかったところ - 易しかったところ」、「面白かったところ - 面白くなかったところ」などの刺激語を用い、学生からの反応語を7つのカテゴリーに分類し、実習指導改善のための評価を行った。その結果、学生は実習で概念・知識（CK）は「難しいけど面白い」し「深まった」と感じていた。また学生は実習の活動（A）や概念・知識（CK）は「難しいけど面白い」し「役に立った」と感じていることが明らかになった。

保健学研究 20(1): 29-37, 2007

**Key Words** : 連想法, 情意的側面, 基礎看護学実習 , 実習評価

( 2007年6月16日受付 )  
( 2007年9月6日受理 )

## 【はじめに】

看護学における臨地実習は重要であり、その評価を行うことは、臨地実習をよりよいものに創りあげていくためにも、極めて重要である。教員が学んでほしい・伝えたい知識や概念が、正確に伝わったかどうか、受け持たせてもらった事例が学生にどのように受け取られたのか、あるいは教員・臨地実習指導者（以下指導者）が考えた指導法が適切であったかどうかなどを、正確に測定しておく必要がある<sup>1)</sup>。

これまで臨地実習の評価は、記録物や実習中の行動、学生へのアンケートなどから学生の実習目的達成について評価するものが主であった<sup>2-7)</sup>。当校においてもこれまでの基礎看護学実習（以下実習という）の評価は、教員が作成した評価表を用いた学生の記録物や実習の行動についての自己評価と臨地実習指導者・教員による評価、学生による実習目的の達成度や要望・問題点などの記述式アンケート（定例ではない）を行い、講義や次年度の実習内容の改善の参考としてきた。しかし、これらの評価では学生の情意面の評価を行うことは困難であった。学生が何を「難しい」と思い、何を「面白い」と感じたか情意面の評価を行うことで、看護過程の展開を臨床で初めて学ぶ学生にとって適切な受け持ち事例であったか、教員・臨地実習指導者の指導法は適切であったか、どのように知識や概念の獲得に影響を与えたか実習評価ができ、具体的な事例の提示や指導法を考える際に有効に働くと考えられている<sup>8,9)</sup>。そこで糸山ら<sup>8,9)</sup>の連想法調査を用いた情意ベクトルによる実習評価を行い、具体的に何を改善すれば良いのか示唆を得たので報告する。

## 【調査方法】

1. 対 象：A大学医学部保健学科看護学専攻  
2年生 65名
2. 調査時期：平成19年3月16日  
（基礎看護学実習 終了日）
3. 調査方法：連想法調査  
刺激語として、「実習で面白かったところ」-「実習で面白くなかったところ」、「実習で難しかったところ」-「実習で易しかったところ」の対語と、「実習で深まったところ」、「実習で役に立ったところ」を用いた。各刺激語に対して50秒間で思い浮かんだ言葉（反応語）を所定の調査用紙に書くように指示した。即ち「実習で面白かったところ」、「実習で面白くなかったところ」という形で学生に提示し、それぞれの反応時間の中で思いつく全ての反応語を書くように指示した。回答で得られた反応語は、情意ベクトルとして示すために、次のような7つのカテゴリーに分類する。
4. 分 析：得られた反応語を情意ベクトルとして表すために次のカテゴリーに分類した。このカテゴリーは、糸山らが「授業とは、授業者や学習者を含めた環境（学習環境：E）の中で、授業者が適当と考えた指導法（学習指導法：I）に従い、具体的な事例や資料、器具など（学習用素材）を通して、授業者が伝えようとする（学習者側から見れば獲得するであろう）教科専門領域のある内容（知識や概念）（学習概念：CK）を伝えること」とであると規定し、授業評価の要因を一部看護学実習に適するように変更したものである。

1 元長崎大学医学部保健学科看護学専攻

2 長崎大学医学部保健学科看護学専攻

1つの刺激語に対して学生が複数回答するため、各カテゴリーの中に1人の学生の回答が複数含まれることになる。

- ・概念および知識に関すること(以下CKとする)
- ・受持患者の援助(以下Mとする)
- ・一般的活動(以下Aとする)
- ・指導法(含指導者)に関すること(以下Iとする)
- ・学習環境に関すること(以下Eとする)
- ・その他(以下Oとする)
- ・無反応(以下Nとする)

5. 倫理的配慮: 調査の目的, 方法, プライバシー保護, 成績には関係ないことの説明を口頭で行い, 同意を得られた者のみに調査を実施した。

【基礎看護学実習Ⅱの実習内容】

1. 実習目的: 既習の知識・技術・態度を統合し, 1つの看護問題に対して患者に応じた看護過程を展開する
2. 実習期間: 平成19年3月5日～3月16日の10日間
3. 実習方法
  - 1) 原則として学生1名が患者1名を受け持つ
  - 2) 受け持ち患者の看護はヘンダーソンの看護論に基づき看護過程を展開する
  - 3) 看護過程展開の記録用紙は講義「コミュニケーションと看護のプロセス」で使用したものと同一ものを用いる

【結果の処理】

分析で示したカテゴリーに基づいて, 反応語を分類しそれぞれのカテゴリーに入る反応語の総数を求め, 概念および知識に関すること(CK)のカテゴリーに関する総反応語数を $N_C$ , 一般的活動(A)のカテゴリーに関する総反応語数を $N_A$ , 受け持ち患者の援助(M)に関する総反応語数を $N_M$ , 指導法(含指導者)(I)に関する総反応語数を $N_I$ , 学習環境(E)のカテゴリーに関する総反応語数を $N_E$ とした。更に刺激語「面白かったところ」に対する総反応語数を $N_C(Interest)$ ,  $N_M(Interest)$ の様に示すこととする。同じように刺激語「面白くなかったところ」「難しかったところ」に対する総反応語数を $N_C(Uninterest)$ ,  $N_M(Uninterest)$ ,  $N_C(Difficult)$ ,  $N_M(Difficult)$ の様に示す。対象者総数Mとし, 「面白かったところ」と「面白くなかったところ」の差及び「難しかったところ」「易しかったところ」の差に対するそれぞれの対象者に対する割合を算出する。即ち,

$$\left. \begin{aligned} & \{N_C(Difficult) - N_C(Easy)\} \times 100 / \text{対象者数} \\ & \{N_M(Difficult) - N_M(Easy)\} \times 100 / \text{対象者数} \\ & \vdots \\ & \{N_C(Difficult) - N_C(Easy)\} \times 100 / \text{対象者数} \end{aligned} \right\} (1)$$

$$\left. \begin{aligned} & \{N_C(Interest) - N_C(Uninterest)\} \times 100 / \text{対象者数} \\ & \{N_M(Interest) - N_M(Uninterest)\} \times 100 / \text{対象者数} \\ & \vdots \\ & \{N_C(Interest) - N_C(Uninterest)\} \times 100 / \text{対象者数} \end{aligned} \right\} (2)$$

を求め, 授業によって学習者が獲得するであろう知識・概念(C')を表す $C' = f(C, M, I, E)$ の式及び式(1)で得た値をX軸及びY軸上にプロットし, 原点から各点への矢印の線を引けば, 「面白かったところ」-「面白くなかったところ」及び「難しかったところ」-「易しかったところ」に対する情意ベクトルが完成する。このときこれらの軸で区切られた各象限のうち第1象限は「難しかったところ」-「面白かったところ」の領域を作ることができる。即ち「難しかったけど, 面白かった」としてどのようなものがあるかを示すことができることになる。第2象限は「易しかったところ」-「面白かったところ」の領域を作ることができる。即ち「易しくて, 面白かったこと」を示すことができる。第3象限は「易しかったところ」-「面白くなかったところ」の領域を作ることができる。即ち「易しくて, 面白くなかったこと」を示すことができる。第4象限は「難しかったところ」-「面白くなかったところ」の領域を作ることができる。即ち「難しくて, 面白くなかったこと」を示すことができる。

また $C' = f(C, M, I, E)$ の式及び式(2)で得た値をX軸に, 「深まったところ」や「役に立ったところ」の反応語数をY軸に表せば, 例えば「難しかったけど, 深まった」や「面白くて, 役に立ったこと」がどのようなものであるかなど, 他の情意面の評価が可能となる。

【結果】

1. 刺激語別の反応語数

6つの刺激語に対する反応語を, CK・M・A・I・E・O・Nの7つのカテゴリーに分類した(表1)。各刺激語の反応語総数は「実習で面白かったところ」349語, 「実習で面白くなかったところ」262語, 「実習で難しかったところ」324語, 「実習で易しかったところ」130語, 「実習で深まったところ」344語, 「実習で役に立ったところ」256語であった。反応語の一部を表1に示した。1人当りの反応語数が最も多いのは「面白かったところ」5.35語, 次いで「深まったところ」5.29語, 「難しかったところ」4.98語, 「面白くなかったところ」4.03語, 「役に立ったところ」3.94語, 「易しかったところ」2.00語の順であった(図1)。

2. 実習全体の情意ベクトル

表2は「難しかった(Difficult)-易しかった(Easy)」と「面白かった(Interesting)-面白くなかった(Uninteresting)」の各カテゴリーに対する反応語数を示したものである。また, 図2は学生の実習に対する全体的な情意ベクトルを示したものである。今回, その他(O)無反応(N)に関しての反応語は除いた。

表1. 刺激語別反応語の一例

刺激語	概念・知識 (CK)	受持患者の援助 (M)	一般的活動 (A)	指導法 (I)	学習環境 (E)	その他 (O)	無反応 (N)
面白かったところ	成長	患者さんとの出会い	コミュニケーション	関連図	笑顔	2週目	
	アセスメント	楽になった	ケア	ほめられたとき	グループ		
	全体像	ADLの向上が見られた	会話	看護師から学ぶ	患者さん		
面白くなかったところ	わからない	記録	きつい	おこられる	早起き	あいまい	
	関連図	すべて自立されていた	ストレス	スケジュールが細かい	さむい	こわい	
	自分の無力さ	ヒヤリハット	コミュニケーションがとれない	レポートが多い	ねれない	何度学	
難しかったところ	アセスメント	合併症	コミュニケーション	教員とのコミュニケーション	早起き		
	関連図	疾患	情報収集		Nsをつかまえる	調査	
	看護問題	性格	記録		自分の生活管理		
易しかったところ	全体像がみえたあと少し	清拭	コミュニケーション	指導・助言	先生・指導者さん	様々な情報提供	なし
	問題点の抽出	毎日の記録	手洗い	指導者の対応	早起き・早寝		特になし
	患者さんを目の前にすると調べものしやすい	カルテからの情報収集	環境整備	先生が相談相手になってくれた	グループで協力できたこと		あまりなかった
深まったところ	関連図	看護過程の展開	コミュニケーション		グループ	憧れ	
	コミュニケーション能力	観察項目	情報収集		患者さん	本音と建て前	
	個性	疾患	ケア		早寝早起きの習慣	無力	
役に立ったところ	事前学習	患者さんの状態観察	コミュニケーション	アドバイス	先生		
	教科書	疾患	バイタル測定	援助の練習	図書館		
	看護過程	清拭	ベッドメイキング	寅造さん(授業での事例)	体力		

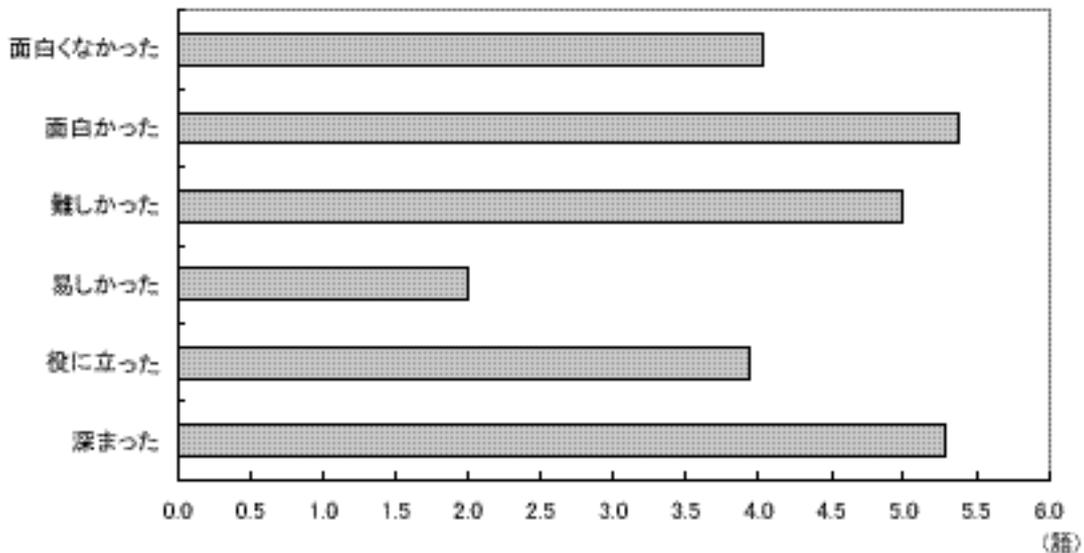


図1. 一人当たりの反応語数

表2. 「難しかった(Difficult)-易しかった(Easy)」と「面白かった(Interesting)-面白くなかった(Uninteresting)」の各カテゴリーに対する反応語数

	Difficult	Easy	D-E	%	Interesting	Uninteresting	I-UI	%
一般的活動(A)	143	58	85	130.8	144	87	57	87.7
概念・知識(CK)	124	7	117	180.0	79	51	28	43.1
学習環境(E)	14	32	-18	-27.7	59	70	-11	-16.9
指導法(I)	1	6	-5	-7.7	15	26	-11	-16.9
受持患者の援助(M)	39	11	28	43.1	41	18	23	35.4
その他(O)	3	2	1	1.5	11	9	2	3.1
無反応(N)	0	13	-13	-20.0	0	1	-1	-1.5

図2に示すように看護過程の概念や知識(CK)は「難しい-面白い」の象限上に「難しい」側に傾いて現れている。実習に関する活動(A)はほぼ45度で現れている。受持患者への援助(M)は活動(A)より、「面白い」側に傾いて現れている。

表2および図2に示すように看護過程の概念や知識の獲得に関しては、学生数65名のうち、「易しかった(Easy)」に対する反応語数は7語(1人当たりの反応語数は0.11語)で、「難しかった(Difficult)」の反応語数124語(1人当たりの反応語数は1.91語)であったことから、「難しかった(Difficult)」の反応語が180%  $(\{124 - 7\} \times 100 / 65)$  みられた。「面白かった(Interesting)」の反応語数は79語(1人当たりの反応語数は1.21語)、「面白くなかった(Uninteresting)」の反応語数は51語(1人当たりの反応語数は0.78語)で、43%の反応語が面白かったところ側に見られた。同様に、実習での活動(A)を見ると、「難しかった」に対する反応語が130%、「面白かった」に対する反応語87.7%であった。受持患者の援助

(M)では、「難しかった」に対する反応語が43.1%、「面白かった」に対する反応語が35.4%であった。これらのことより実習での知識・概念の獲得は「面白けど難しく」、受持患者への援助(M)は「難しいけど面白い」ことを示している。

これに対して、指導法(I)や学習環境(E)の反応語は面白くない側に現れていた。

3. 「難しかった-易しかった」と「深まった」の情意ベクトル

図3をみると、実習に対する概念や知識(CK)の反応語は「難しかった」180%、「深まった」272.3%であった。概念・知識(CK)で「難しかった」のは、反応語からアセスメント、次いで関連図、看護問題、評価、個別性、疾患の理解などであった。「深まった」内容は関連図、次いでコミュニケーション能力、個別性、患者理解、情報の大切さ、看護などであった。

実習環境(E)の反応語は、「易しかった」27.7%、

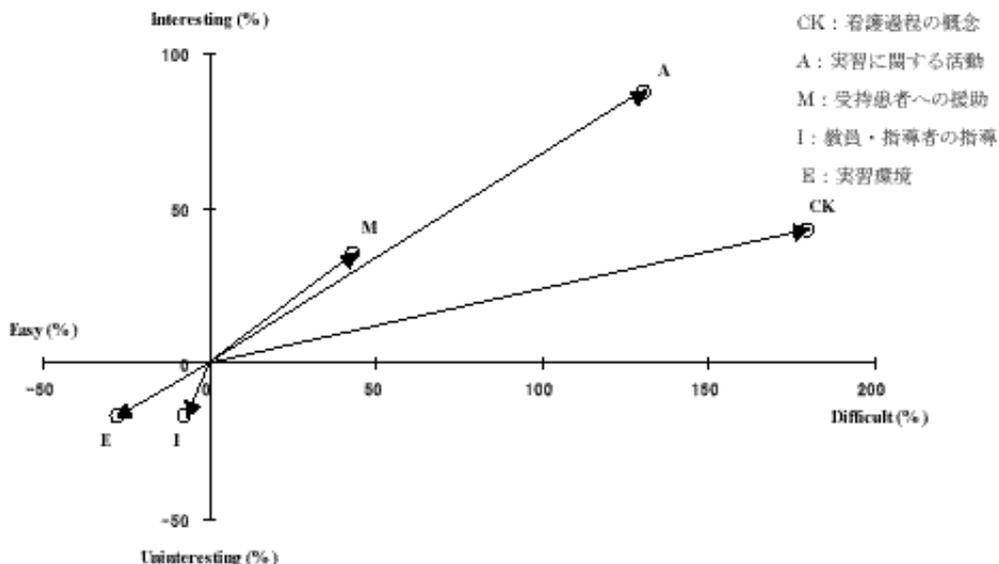


図2. 「難しかった(Difficult)-易しかった(Easy)」と「面白かった(Interesting)-面白くなかった(Uninteresting)」の情意ベクトル

「深まった」53.8%であった。「易しかった」の反応語としては先生、指導者がみられた。「深まった」学習環境の詳細を見ると、グループ間のこと、患者のことであった。

指導法 (I) に関して「深まった」という反応語はみられなかった。

4. 「面白かった - 面白くなかった」と「深まった」の情意ベクトル

図4をみると、実習に対する概念や知識 (CK) は「面白かった」と43.1%の学生が感じていた。「面白かった」のは成長、次いでアセスメントのやり方がわかってきた、全体像がみえたこと、看護のすばらしさ・深さ、わからないことがわかったなどであった。

実習環境 (E) の反応語で「面白くなかった」は16.9%であった。「面白くなかった」のは早起きが最も多く、次いで眠れない、寒い、2週目の月曜日という反応語がみられた。

5. 「難しかった - 易しかった」と「役に立った」の情意ベクトル

図5をみると、学生が実習の活動 (A) や概念・知識 (CK) は「難しかった」が「役に立った」と感じていた。活動 (A) の反応語で「役に立った」は135.4%で、概念・知識 (CK) の反応語で「役に立った」は132.3%であった。詳細を見ると役に立った活動 (A) はコミュニケーション、次いでバイタルサイン測定、ベッドメイキング、演習、あいさつ、カンファレンスなどであり、

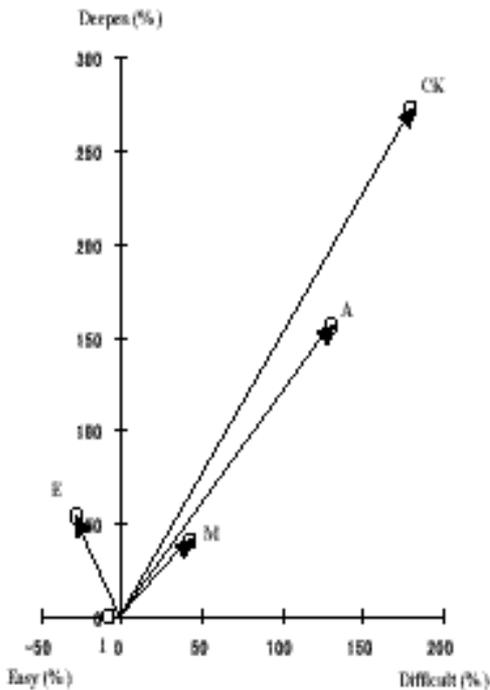


図3. 「難しかった - 易しかった」と「深まったところ」の情意ベクトル

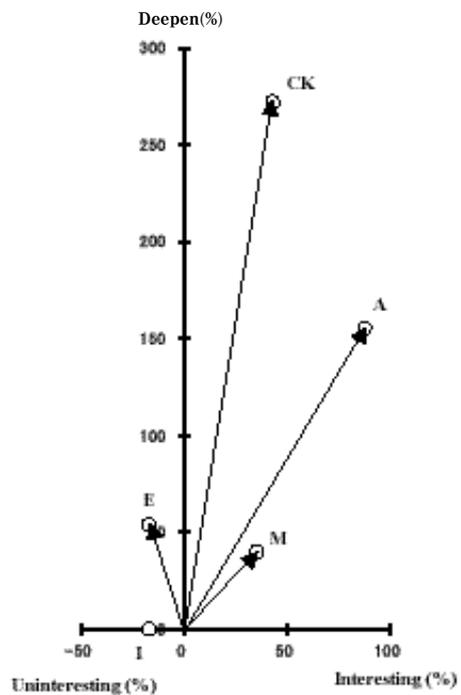


図4. 「面白かった - 面白くなかった」と「深まったところ」の情意ベクトル

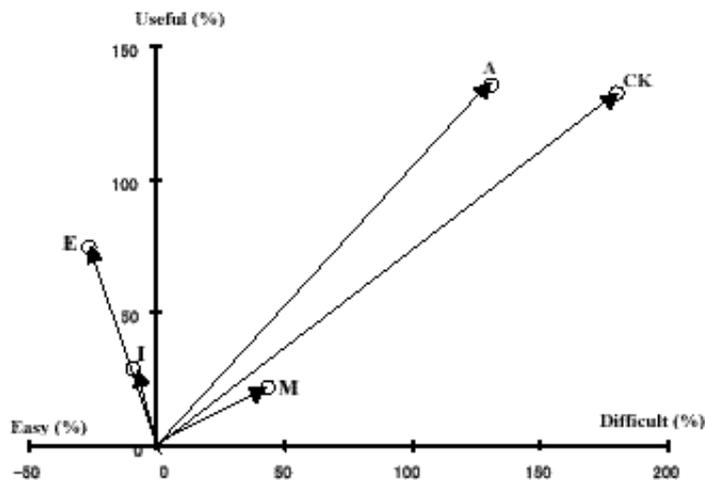


図5. 「難しかった - 易しかった」と「役に立った」の情意ベクトル

役に立った概念・知識（CK）は事前学習，次いで知識，教科書，授業で行った看護過程の事例などであった。

学習環境（E）の反応語は，「易しかった」は27.7%，「役に立った」は76.9%であった。指導法（I）の反応語は，「易しかった」は7.7%，「役に立った」は27.7%であった。「役に立った」指導法は教員・指導者の助言，授業での事例などであった。

#### 6. 「面白かった - 面白くなかった」と「役に立った」の情意ベクトル

図6をみると，実習の活動（A）の反応語では「面白かった」は87.7%，「役に立った」は135.4%であった。詳細を見ると役に立った活動（A）はコミュニケーション，次いでバイタルサイン測定，ベッドメイキング，演習，あいさつ，カンファレンスなどであった。

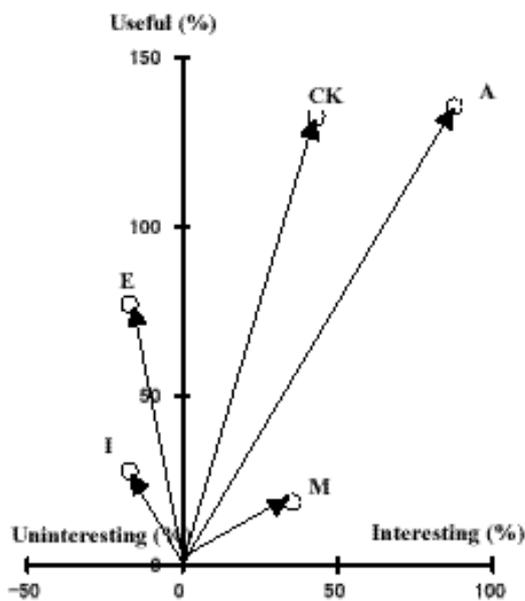


図6. 「面白かった - 面白くなかった」と「役に立った」の情意ベクトル

概念・知識（CK）の反応語で「面白かった」が43.1%，「役に立った」が132.3%であった。役に立った概念・知識（CK）は事前学習，次いで知識，教科書，授業で行った看護過程の事例などであった。

学習環境（E）の反応語で「面白くなかった」は16.9%，「役に立った」は76.9%であった。「役に立った」学習環境は，友人・グループ関係で，次いで先生・指導者であった。

指導法（I）については「面白くなかった」の反応語は16.9%で，「役に立った」の反応語は27.7%であった。「面白くなかった」指導法は，教員や指導者に怒られる，レポート・記録物が多いなどであった。

#### 【考 察】

##### 1. 実習全体を通して

1つの刺激語に対する反応語数は，約70人の大学生を

対象にした調査では約230～240語であると言われている<sup>10)</sup>。今回の6つの刺激語での結果では糸山らの大学生を大きく超えたのが，「実習で面白かったところ」349語，「実習で深まったところ」344語，「実習で難しかったところ」324語であった。これは，実習は難しかったが，面白く，深まる学習形態であり，学生は実習を通して多くのことを学んでいると考えられる。さらに図1の実習に対する全体的な情意ベクトルや図3・図4から，学生は実習で概念・知識（CK）は「難しいけど面白い」し「深まった」と感じていたと言える。また図5・図6に見られるように，学生は実習の活動（A）や概念・知識（CK）は「難しいけど面白い」し「役に立った」と感じていることが明らかになった。

実習での活動（A）は面白いと感じているが，受持患者への援助（M）となるとあまり面白く感じていない傾向がみえたことは，看護過程の展開が初めてであることと関係していると考えられる。受持患者への援助（M）が「面白い」側の反応が多くできるようにするためには，看護過程の展開をはじめて行う学生にとって援助の1つ1つに対する分析・計画立案への細かな指導が必要であると考えられる。また患者の選択についても考慮する必要がある。入院期間の短縮や1人で複数の疾患に罹患している患者が多いなど，初めて看護過程の展開を行うという学生のレディネスを考慮した患者設定が難しい状況も見られるが，指導者と十分な打ち合わせを行い，極力学生のレディネスに応じた患者選定が必要である。

##### 2. 実習の「難しかった - 易しかった」ところ

「難しい」と感じている内容は，看護過程を展開するための知識・概念であり，糸山らのこれまでの授業に対する情意面の評価と同じ結果となった。「易しい」の指導法（I）では，先生や指導者という反応語がみられたことは「優しい」と混同しているのではないかと危惧する。また「早起き」「病院と家が近い」という反応語もみられ，学習環境に関することと区別する必要がある。今後はカテゴリーの追加を検討する必要があると考える。

##### 3. 実習の「面白かった - 面白くなかった」ところ

「面白かった」と感じている内容では，糸山らのこれまでの授業に対する情意面の評価では学習用素材や学習指導法であったが，今回の調査では臨床で患者とかかわることで学習者自身が理解を深めるという学習プロセスが明確な学習方法を「面白い」と感じていた。「面白くなかった」指導法が教員や指導者に怒られる，レポート・記録物が多いなどであったことは，助言を学生がどのように受け止めたのか，指導場面・状況は適切であったか，適切なレポート課題であったかなどの検討が必要であると考えられる。

#### 4. 実習で「深まった」ところ

深まった内容は「難しかった」と感じている内容と同じで、看護過程の展開に関する知識・概念であることから、講義で学習した知識・概念が実習での経験を通して理解が深まったと考える。

「深まった」学習環境では、グループの信頼、グループの中、グループで学ぶなど、グループで学ぶ事に関する反応語があげられたことから、グループダイナミックスを活用した実習が行われた結果であると考えられる。

指導法に関して「深まった」という反応語はみられなかったことは、刺激語の特性もあるが、概念・知識が深まったかどうか、受持患者への援助が効果的におこなわれていたかなどから判断していく必要がある。さらに、指導法に関する反応語はみられなかったことを問題と捉え、指導方法の見直しも検討する必要がある。現在、教員は各々で実習指導案を作成しているが、実習には基礎看護学分野の教員だけでは不足のため、他領域の教員の援助を受けていることから、共通の実習指導案を作成することも必要であると考えられる。松田<sup>11)</sup>の報告でも共通の指導案を使用することで、指導の評価基準が明らかになること、学生に助言しすぎたり待たずに適切な指導助言の時期を逸することを減じることができることから、学生の目標達成が一定レベルに至ることが期待できると述べている。共通の指導案に各教員の指導案を組み合わせることで、学生の個別性に応じた細やかな対応が可能になると考える。

また学生は初めての看護過程展開の実習であったことから、刺激語「面白くなかったところ」「難しかったところ」の反応語に関連図という表現がみられることから、患者の全体像が捉えにくいことが伺える。全体像は看護問題を抽出するためには重要であるが、情報の意味やアセスメントの視点が理解できていないと患者の全体像は捉えられない<sup>12,13)</sup>。しかし「面白かったところ」「易しかったところ」「深まったところ」でも反応語に全体像に関する表現がみられていることから、グループダイナミックスを活用し、学生同士で問題解決をしていくような指導方法を取り入れ行くことも効果的であると考えられる<sup>14)</sup>。また全体像が捉えにくいのは、統一体としての人間を捉えることができないことも原因と考えられる<sup>15)</sup>。看護過程の講義では、全体像をライフストーリーや家族、健康段階、発達課題から捉えるように指導しているが、更に深められるように教授方法の工夫が必要である<sup>13)</sup>。

#### 5. 実習で「役に立った」ところ

「役に立った」では知識・概念と活動が同じくらい高値を示していることは、知識・概念の獲得や深まりに活動(A)が大きな影響をもっていると言える。役に立った内容として事前学習という反応語があり、1年次の授業での事例を使つての復習、看護技術の練習、実習病棟特有の解剖生理等を課題として提示しているのは効果的

であると思える。臨地実習での応用力・判断力・統合する能力を発揮するための準備として学内演習の重要性が言われていることから<sup>16)</sup>、これらは効果的な課題と考える。

#### 【おわりに】

連想法調査による授業評価はこれまで行われており、学習者が学習目的を到達できたか評価し、次の授業の改善のための大きな要素となっている。今回、連想法を実習評価に用いたことで、これまで評価が難しかった学生の情意面の評価を行うことができた。しかし、分析において授業評価で用いているカテゴリーで分類したため、臨地実習という学習形態で出てきた反応語を分類する場合には、既存のカテゴリーでは分析しにくい反応語があった。今後は看護における臨地実習の学習形態に応じたカテゴリーを作成し、学生の情意面の評価を行う必要がある。

#### 【結 論】

基礎看護学実習における学生の情意面の評価を、連想法調査で行った結果、以下のことが明らかになった。

1. 1人当りの反応語数が最も多いのは「面白かった」次いで「深まった」「難しかった」であった。
2. 学生は実習の概念・知識(CK)は「難しいけど面白い」し「深まり、役に立った」と感じていた。
3. 学習環境(E)については「易しいけど面白くなかった」が「深まった」と感じていた。
4. 刺激語「深まった」では、指導法(I)に関する反応語はみられなかった。
5. 学生は実習の活動(A)は「難しいけど面白い」し「役に立った」と感じていた。
6. 学習環境(E)・指導法(I)については「易しいけど面白くなかった」が「役に立った」と感じていた。

#### 【謝 辞】

連想法調査についてご指導くださいました長崎大学教育学部の糸山景大教授に感謝いたします。

#### 参考文献

- 1) 平林佳子, 後藤ヨシ子, 糸山景大: 連想調査による授業の情意的側面の授業評価 - 高校家庭科の授業評価 -, 学校教育再生に資する授業学構築のための基礎研究(課題番号: 15530596), 平成15年度~17年度科学研究費補助金基盤研究(C)(2)研究成果報告書, p48-56, 2006
- 2) 小林美奈子, 城取由紀子, 古谷春江, 吉田祐子, 高野紀子, 新井美保, 坂中洋子, 大橋千津子: 生活者として対象理解を目指した基礎看護学実習の学びの分析, 日本看護学会論文集 看護教育, 35号, p66-68, 2005.1

- 3) 佐藤まゆみ, 松井美子, 相沢澄子, 北浦益代: 基礎看護学実習 - 1の教育的効果と今後の課題 実習後のレポート内容を分析して, 日本看護学会論文集 看護教育35号, p63-65, 2005.1
- 4) 森本美佐: 基礎看護学実習の実習方法変更における評価: 看護過程の習得状況を分析して, Study reports of Narabunka Women's Junior College, Vol.35, p45-51, 2004
- 5) 柿原加代子, 松田日登美, 原田真澄: 基礎看護学実習(見学実習)におけるレポート記述内容の質的分析 - 環境の援助技術の記述内容の分析から -, 日本赤十字愛知短期大学紀要, 第15号, p1-13, 2004
- 6) 中川雅子, 中西貴美子, 吉岡一実, 片岡智子, 林智子, 高植幸子, 石井八恵子: 基礎看護学実習 における学習内容の分析 - 基礎看護実習レポートからみた看護過程の学習内容と自己効力・社会的スキルとの関連性 -, 三重看護学誌, Vol.4(1), p57-67, 2001
- 7) 片岡智子, 林智子, 石井八恵子: 基礎看護学実習の振り返り - 「看護過程」の学習過程の実習記録から分析して -, 三重看護学誌, Vol.3(1), p123-132, 2000
- 8) 糸山景大, 上園恒太郎: 連想法を用いた情意ベクトルによる授業評価, 長崎大学教育学部紀要 - 教育学科 -, 第67号, p1-11, 2004.6
- 9) 糸山景大: 情意面の評価法として情意ベクトル図, 授業設計理論と授業評価法としての連想法調査, p54-55, 2003.4
- 10) 糸山景大, 藤木卓, 金崎良一, 上園恒太郎: 標本サイズの変化に対する連想における諸量の挙動, 信学技法, 電子情報通信学会, p97-99, 1997.2
- 11) 松田日登美: 基礎看護学実習における実習指導案の検討, 日本赤十字愛知短期大学紀要, 第15号, p15-29, 2004
- 12) 黒田祐子: Source: 教員のための看護診断入門 看護における看護診断の位置づけ 看護過程と看護診断, 看護教育, Vol.35, p655-661, 1994
- 13) 水谷成子: 死の転帰をとった患者の全体像と看護診断の比較 心理的・社会的領域のフォーカス・アセスメントを試みて, 看護技術, Vol.41, p1312-1316, 1995.1
- 14) 内田陽子: 看護大学生との関わりから考察した臨床指導方法についての一考察, 第23回日本看護学会 看護教育, p60-62, 1992
- 15) 佐藤幸子, 青木実枝, 井上京子, 新野美紀, 鎌田美千子, 小林美名子, 矢本美子: 基礎看護領域における看護過程の教育方法 - 看護診断過程を中心に -, Yamagata Journal of Health Science, Vol.6, p1-7, 2003
- 16) 平木民子: 看護学教育における臨地実習前の学内演習の意義 - 日本赤十字広島看護大学のカリキュラム -, Quality Nursing, Vol.8 No.10, 2002

# Evaluation on Clinical Practices by Association Method - Evaluation on Basic Nursing Practicum by Emotional Vector -

Keiko TSUJI<sup>1</sup>, Kanae HAMANO<sup>2</sup>, Ayumi NOMURA<sup>2</sup>, Akiyo INOUE<sup>2</sup>

1 Former Department of Health Sciences, Nagasaki University School of Medicine

2 Department of Health Sciences, Nagasaki University School of Medicine

Received 16 Jun 2007

Accepted 6 September 2007

**Abstract** The purpose of this study is to evaluate the lecture of the Basic Nursing Practice by the association method from the emotional point of view. The purpose of the lecture was for students to study the nursing process. We used "opposite word"pairs as the stimulus words, such as "difficult/easy" and "interest/uninterested", to draw out responses from the students. Their responses were categorized into seven categories. We evaluated them in order to improve the lecture. We found that students felt that the concept/ knowledge(CK) was "difficult and interesting" and "difficult and deep" in clinical exercises. In addition, it became clear that the students felt "difficult but interesting" and "useful" for the activity(A) and the concept/knowledge(CK) in clinical exercises.

Health Science Research 20(1) 29-37, 2007

**Key Words** : association method, emotional point of view, basic nursing practicum ,  
evaluation on clinical practices